

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook
第4戦 TKU スーパー耐久レース in オートポリス

2021年7月31日(土)~8月1日(日)
オートポリス(大分県)
入場者数: 7月31日 2,723人
8月1日 3,732人



第3戦の悔しさをチーム一丸で払拭
会心のレースで今季3勝目を飾る

FREE PRACTICE

開幕2連勝の後、開幕前から準備を進めてきたKTMS GR YARISを投入し戦った5月の第3戦NAPAC富士SUPER TEC 24時間レースでは、レースの大半をリードしながらも火災に見舞われ、レースを諦めるとともに、新車の変わり果てた姿に涙を吞んだKTMS。

しかし不幸中の幸いで、炎は大きく上がったがKTMS GR YARISのフレームにはダメージがほとんどなく、火災でダメージを受けたパーツを交換しながら、2ヶ月強のインターバルを使い修復が完了。ふたたび美しい姿に整えられ、チームは阿蘇の山あいにある難コース、オートポリスでの第4戦に臨んだ。

修復ができたとは言え、新しいパーツも多

く、この機会に改良も施している。KTMS GR YARISにとっては“二度目のシェイクダウン”のような状況だ。7月29日(木)に設定された2回の特別スポーツ走行を使い、まずは1回目で野中誠太と平良響が、2回目では翁長実希と、今回もチームに加わった一條拳吾がドライブ。続けて専有走行も走り、修復後の細かなトラブルを解消していった。

明けて7月30日(金)も2回の専有走行が行われたが、午前9時15分からの走行では酷暑のなかで4人が走り、野中、平良が一気に2分04秒台へタイムアップ。野中の2分04秒157がST-2クラスのトップタイムとなった。

午後1時15分からスタートした全車が走行



する最後の専有走行では、途中二度の赤旗中断を挟むなか、4人のドライバーたちが交代しながらラップ。2番手につけ、ふたたび走り出し戦闘力を取り戻したKTMS GR YARISを予選に向けて仕上げていった。

7月30日 スーパー耐久 STEL 専有 Gr.1 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	225	KTMS GR YARIS	2'04.157
2	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	2'05.114
3	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	2'07.955
4	56	Clariss Racing GR YARIS	2'10.280
	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	出走せず

7月30日 スーパー耐久 STEL 専有 Gr.1+2 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	2'05.522
2	225	KTMS GR YARIS	2'05.882
3	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	2'09.066
4	56	Clariss Racing GR YARIS	2'10.336
	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	出走せず

QUALIFY

明けた予選日、7月31日(土)も朝から気温が上がり汗ばむ陽気となっていたが、やや雲が多く、夕刻からは雨の予報も出ている状況となった。そんななか、午前10時20分からスタートしたフリー走行でKTMS GR YARISはセットアップを確認。午後1時55分からスタートした公式予選に臨んだ。

まずはAドライバー予選でアタックを担ったのは野中。3周目、2分04秒092という好

タイムをマークするが、惜しくもトップには届かず2番手。続くBドライバー予選では平良がドライブ。3周目に2分03秒422をマークするが、こちらもクラス3番手となった。合算では2番手だが、今回はライバル車種のストレートが速いのだ。とはいえ、決勝に向けてはKTMS GR YARISは自信があった。Cドライバーの翁長、Dドライバーの一條もきっちり予選を終え、予選日をしめくくった。



7月31日 スーパー耐久 フリー走行

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	2'04.044
2	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	2'05.764
3	225	KTMS GR YARIS	2'06.215
4	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	2'07.106
5	56	Clarix Racing GR YARIS	2'13.294

7月31日 スーパー耐久 公式予選 A Dr./B Dr.

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	4'04.704
2	225	KTMS GR YARIS	4'07.514
3	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	4'07.650
4	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	4'10.377
5	56	Clarix Racing GR YARIS	4'18.861

RACE



走行初日からずっと夏空のもとだったオートポリスだが、決勝日となる8月1日(日)は、前夜から降り出した雨が残り、ウエットコンディションとなっていた。午前8時からのウォームアップでウエットの状況を確認し、いよいよ午前11時からの決勝に臨んだ。

今回、初めてKTMS GR YARISのスタートドライバーを務めることになったのは翁長。これまでGR YARISでのウエットの経験も少ない上に、初のスタートと緊張した面持ちだったが、「まずは安全に」と序盤#6ランサーを追っていく。しかし、少しずつ雲が増えはじめ、3周目には視界不良のためセーフティカーが導入された。一時晴れた7周目にリスタートを迎えるが、またすぐにセーフティカーと、視界は晴れぬまま。そんななか、後方からのプレッシャーにさらされた翁長はわずかに順位は落とすも、まずは次に繋ぐことを考え、無理をせずに走り続けた。

しかしセーフティカー先導のもと12周を終えた段階で、レースは視界不良のため赤旗中断となってしまう。約1時間ほどのインターバルを経てレースは再開されたが、その頃には天候は大きく回復。路面も乾きはじめていた。

リスタート後、翁長はふたたびKTMS GR YARISで前を追うが、路面が乾きはじめていたこともあり、少しずつペースが苦しくなってきた。翁長は状況を確認しながら、16周を終えピットイン。大役を務め平良に交代した。

第2スティントを担当する平良の役目は、乾いた路面で履いたスリックタイヤをなるべく保たせることだ。そうすれば戦術の幅が広がっていく。平良はタイヤを労りながら、可能な限りベストなペースで追い上げをみせていった。

ただ、晴れ間も見えはじめ気温も上昇。平良はスティント序盤こそ2分07秒台で走っていたが、だんだんと2分08秒台にラップが落ちていく。チームは計算しながら平良を58周目にピットに呼び、タイヤ交換とともに野中に交代。ふたたび長めのスティントを任せた。

野中も同様に、完全にドライに転じたコンディションのもとレースを進めていく。今回、1時間の中断があったことから、それぞれのスティントを長めにとり2回のピットストップで終えようという作戦もあったが、燃費、タイヤの両面で少しずつ苦しくなってきた。ただ平良、野中の頑張りのおかげで序盤好ペースだっ

た#59 WRX STIをすでにかわしており、ランサー勢も後方。クラス首位を盤石としていたことから、チームは88周を終え野中を呼び、一條をコックピットに送り込んだ。

レース終盤、KTMS GR YARISを駆る一條は平良や野中にも負けないペースで快調にラップを重ねていくと、いよいよ午後4時、KTMS GR YARISは102周を走りきり、ST-2クラストップでチェッカーを受けた。

一條はドライバーとしてはチームで2戦目だが、2020年はスタッフの一員として毎戦ハードワークをこなしており、チームの苦勞をとみに味わってきた。前戦の富士での悔しさを、4人のドライバーたち、そしてチームが一丸となった戦いで最高の笑顔に変えてみせたのだ。

これで今季3勝目。そして、富士から投入されたKTMS GR YARISにとっては初の栄光となった。富士の悲しみを力に変えたKTMSは、また強力なチームへと一歩ステップを踏んだ。



DRIVER'S VOICE



野中 誠太 SEITA NONAKA

スタートではタイヤ選択があまり良い方向にはいかず、苦しい展開ではあったのですが、ひとりひとりのペースが良く、タイヤの状況なども理解できていたので、悩まずチームとして良い作戦を立てられたと思います。それが優勝に繋がったのではないのでしょうか。富士 24 時間では本当に悔しい思いをしていましたし、レースまでに細かいトラブルもあったので不安もありましたが、まずはこのマシンで走り切れたのは嬉しいです、また、開幕の 2 勝は別のマシンで、今回富士でデビューしたこの GR YARIS で優勝できたので、その点でも今回の優勝はすごく嬉しかったですね。



平良 響 HIBIKI TAIRA

前戦は本当に残念な結果でしたが、今回優勝することができてチームの盛り上がりを感じました。前回があったからこそ今回の優勝なんだと思います。昨年、SUGO でも苦しいレースで、それがあったからこそチームが一致団結したので、同じ雰囲気を感じました。レースについては、僕はスリックでかなり長めに引っ張るといった戦術だったので、なるべくタイヤを使わないようにしたのですが、それでも最後は苦しくなりましたね。次戦の鈴鹿は今回ほど暑くはないと思うので、タイヤは大丈夫だと思いますが、コースが狭いので抜き方、抜かれ方のロスを少なくしたいですね。



翁長 実希 MIKI ONAGA

前回の富士 24 時間では、ひとりひとりが頑張っただけでドライブして作ったクルマだったので、リタイヤは本当に悔しかったです。その悔しさを胸に、みんなで心をひとつにして挑んだ結果が今回の優勝に繋がったと思います。今回はまたスタートを初めて任せられ、またウエットでのレーシングスピードでの走行も初めてだったのでタイヤ選択に悩みました。それがあまり良い方向にはいかず、苦しい展開にはなりませんが、その後 3 人がペース良く走ってくれたのが優勝の要因だと思います。鈴鹿でのスーパー耐久はまだ経験がないので、安全にしっかり繋ぐことができたらと思っています。



一條 拳吾 KENGO ICHIJO

とっても嬉しいです！ 昨年はマネージャーとしてこのチームに関わらせていただき、どういう思いでみんながスーパー耐久に挑んでいるのか、前回の火災からどういう過程でクルマを直してくれたのかも知っているのですが、そういう思いがすべて繋がった一戦になったと思います。もともとオートポリスはあまり経験もなく、得意なコースではなかったのですが、他のみんなの力強い走りに支えられました。次戦は鈴鹿ですが、実は走ったことがないんです。逆に楽しみにしていますし、仕事をしっかりこなせば結果はついてくると思うので、怪我無くしっかり完走を目指したいと思います。

8月1日 スーパー耐久 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Total Time	Gap
1	225	KTMS GR YARIS	102	5:02'53.326	
2	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	102	5:03'43.324	49.997
3	7	新菱オート☆ VARIS ☆ DXL ☆ EVO10	100	5:03'41.598	2Laps
4	6	新菱オート☆ NEOGLOBE ☆ DXL ☆ EVO10	98	5:02'12.548	4Laps
	56	Clarix Racing GR YARIS	66	3:59'04.961	36Laps

